

「XをYにして」における形式動詞「して」の脱落について

張麗 (大東文化大学)

The Omission of the Formal Verb "shite" in "X wo Y ni (shite)" Patterns ZhangLi (Daito Bunka University)

1. はじめに

文の成立には、主要な部分と付加的な部分がある。益岡・田窪(1992)は付帯状況・様態を表す副詞節について、次のように述べている。「付帯状況を表す副詞節は、ある動作に付随する状態や、ある動作と同時並行的に行われている付随的動作を表す。様態の副詞節は、ある動作の特定のやり方を表す。付帯状況を表す表現には、「動詞タ形+「まま(で)」、「動詞タ形+「きり」」「動詞テ形」、「動詞連用形+「ながら」」、「動詞連用形+「つつ」、等がある。付帯状況を表す他の表現として、「ヲ格+「に」」の形式がある。(地図を手に目的地を探した。)」

村木(1983)では

- (1) 超大国のつばぜり合がチャドとスーダンを舞台に激化している。
- (2) ソ連のアフガニスタン侵攻をきっかけに米国内で防衛力増強の要望が高まった。

のような言いまわしは、

- (1') ……チャドとスーダンを舞台にして……
- (2') ……アフガニスタン侵攻をきっかけにして……

のように「して」を補える。(1)(2)のような言いまわしは形式的な動詞「する」の連用の形式「して」が脱落して成立したものであろうと述べている。では、どのような「XをYにして」の「して」が脱落し、「XをYに」の形になれるのか、どのような「XをYにして」の形式動詞「して」が脱落できなくて、「XをYに」に変更できないのか。「XをYに」の意味分布はどうなっているのか。「XをYにして」と「XをYに」はどちらがよく使われるのかという問題は管見のかぎりまだ明らかにされていない。

2. 「XをYに」の先行研究

2.1 村木新次郎(1983)(1991)

村木(1983)(1991)は以下のように要約している。

- ① 「N1をN2に」のような言い回しは、発生的には、おそらく、形式的な動詞「する」の連用の形式「して」が省略されて成立したものであろう。「N1をN2にして」と「N1

を N2 に」のように「して」がついても、つかなくてもいい表現がある。「して」のつかないもののほうが、「して」のついたものよりも多い。「して」の有無によって、一般に意味の差は生じないようである。

動詞が「して」ではなくて、慣用句を構成する動詞部分が省略されて、同じタイプの表現を作ることがある。

- ② <N1 ヲ>と<N2 ニ>が各々独立して(主)文の成分になることができない。また二つの名詞句の順序を入れかえることもできない。
- ③ <N1 を N2 に>の<N2>は一般に連体修飾をうけることがない。
- ④ <N1 を N2>(動詞省略)の構造をもつ表現では、副助辞・waによって名詞句を主題化することができない。
- ⑤ <N1 を N2>はその知的意味を変えないで、デ、カラ、ニ、トなどの格助辞や(ニ)オイテ、(ニ)ヨッテ、(ニ)対シテなどの後置詞に置き換えられることがある。
- ⑥ N1 と N2 が結合して複合語をつくることがある。(「子供相手に」)
- ⑦ <N1 を N2>はひとまとまりとなって構文上の機能をはたす。状況的な成分、付帯的な状況、補語成分に分類している。

村木(1983)(1991)は相当な量の例を踏まえた上で、細かく分類し、今後の研究に非常に参考になるが、どういう条件を満たして、「XをYに」という構文を作るのかという点は明らかにされていない。

2.2 寺村秀夫(1983)(1993)

寺村(1983)(1993)は「XヲYニ、S」という構文の成立の条件は少なくとも以下のようなものであろうと考える。

- ① 名詞X、YとS(あるいはそれを構成する主格語と述語)の間に「XがSのYだ」という意味関係が存在することである。
- ② Yは、本来的に「何かのY」であるような性格をもった名詞でなければならない。
- ③ Sが通常その述語の主格に立つ名詞の表すものの意図した成り行き、意図的な行為を表す文であるということ。

以上の三つの条件以外に、更に、表現意図が必要であると述べている。

寺村はどのような条件が満たされれば、この種の構文が成立するかという構文条件を考察した。その構文条件は村木による分類の例にほとんど通用するが、「所持」と分類されたYが身体部分を表す場合は通用できない。更に、その構文条件を満たされても、必ず「XをYに」という構文が成立できるとは限らない。例:「あんな女を女房にして」という例は、「あんな女を女房に」という構文は成立できないだろう。寺村は「XヲYニ、S」という構文の成立条件は少なくとも前文で述べた三つの条件であると述べているが、その三つの条件は「XをYにして、S」の構文条件であり、「XをYに、S」の構文条件ではないだろうと考える。どのような「XをYにして」の形式動詞「して」が脱落して、「XをYに」に変更できるかはまだ明らかにされていない。

2.3 奥田靖雄 (1983)

奥田 (1983) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」では、「軍人にする」、「亭主にする」、「よめにする」、「人質にする」、「犠牲にする」のような単語のくみあわせも、人をしめすを格の名詞とくみあわさって、社会的な状態変化をあらわす連語を作っていると述べている。また、奥田 (1983) 「二格の名詞と動詞とのくみあわせ」において、結果規定のむすびつきをつくる動詞のうちで一番よくつかわれるのは、「なる」と「する」とであると述べている。(例：すなわち、おおすぎる黒髪をロングカットにしている。)
「XをYにする」表現の例文は少し見えたが、詳しくは述べられていない。

2.4 金子比呂子 (1990)

金子 (1990) は東京外国語大学付属日本語学校の「中級日本語」に出ている「～を相手に・にして」「～を条件に・にして」「～を理由に・にして」「～を手がかりに・にして」「～を中心に・して」「～を前に・にして」「～を後に・にして」「～を片手に」という8つの「N1をN2にして」を考察してきた。考察の指標は次のようである。「N1をN2に(して)」の「する」は文末にきて、述語としての機能を果たすか、活用するか、意志があるか、「N1をN2にして」の「して」は他のどんな動詞に置き換えられるか。「N1をN2に」と「N1をN2にして」どちらも生起する場合、両者の間にどんな意味の違いがあるか。「N1をN2に」の「に」、または「N1をN2にして」の「にして」は、「として」に置き換えられるかなどである。金子は教科書に出ている例は細かく分析しているが、「N1をN2にして」の「して」の脱落条件には触れていない。

2.5 田中寛 (2010)

田中 (2010) は<XをYに>形式の中で特に<きっかけ>を表すYの名詞の意味範疇に注目し、下位分類の可能性を考察している。それによれば、Yにはピーク、潮、教訓、皮切り、振り出し、最後などが含まれる。<XをYに>形式の様々な派生形特に連体修飾形についての指摘は「して」脱落現象の考察に一つの道筋を与えていると言えるが、ここでも「して」の脱落許容条件については詳しく言及されていない。

本論文は主に四つの問題を解決しようと思う。

- (1) どのような「XをYにして」の形式動詞「して」が脱落できなくて、「XをYに」に変更できないのか。
- (2) どのような「XをYにして」の形式動詞「して」が脱落し、「XをYに」に変更できるのか。
- (3) 「XをYに」の意味分布はどうなっているのか。
- (4) 「XをYにして」と「XをYに」はどちらがよく使われるのか。

本論では村木氏のN1、N2をそれぞれX、Yとしている。Yは形式名詞の場合は、今回

の調査では考察対象として扱っていない。

3. 調査方法

3.1 調査方法 1

本論文は主に「現代日本語書き言葉均衡コーパス」¹の「少納言」を利用し、調査した。まず「にして」で検索し、ランダムに 500 件の例文が出てきた。その 500 件の「にして」がついた例文の中から、「X を Y にして (いる／おる／いた／くれる…)」の例文を抽出した。更に、得た例文から、「～を Y に」で再検索した。たとえば、「にして」で検索して、「あんな女を女房にして」という用例を得た場合、「～を女房に」というキーワードで再検索し、「～を女房に」という用例が出てくるかどうかによって、「～を女房に」という表現を使えるかどうかは判断できる。「X を Y にして」は述語としての表現を考察対象外としている。コーパスでの検索で、「X を Y に」という形がない場合、念のために、Yahoo というエンジンで再検索した。そうすると、用例が大体 2 種類に分けられる。

<a> 「X を Y にして」という形しかなく、つまり、「X を Y にして」の「して」が脱落できない用例

 「X を Y にして」と「X を Y に」両方の形が全部そろっている用例、つまり「X を Y にして」の「して」が脱落できる用例

(用例は 2012 年 11 月 2 日に検索 100 例を超えた場合、100 例に限定している。)

3.2 調査方法 2

調査 1 で「X を Y にして」と「X を Y に」両方の形がそろっている場合、「X を Y にして」と「X を Y に」のそれぞれの使用数量と使用率を調べる。

4. <a> 「X を Y にして」の形があるが、「X を Y に」の形がない用例についての分類

<a>の用例を分析すれば、どのような「X を Y にして」の「して」が脱落できないのか、明らかにすることができると思う。

4.1 変える・変わる意味を表す

4.1.1 物の数量、程度、形、色、様子、状態を変える

種類 1 数量、価格、時間などを変える

(1) 相手国の輸入規制を免れるため外国業者と共謀し、輸出貨物の価格等を虚偽に低価に

¹ <http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

このサイトでは大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) のデータを検索できる。BCCWJ には、現代の日本語の書き言葉の全体像を把握できるように集められたサンプルが約 1 億語収録されている。

して輸出手続を行ったり，国内における業界内の取決めに逸脱するために虚偽の輸出手続を行う。

（『警察白書』（1979）昭和 54 年版 警察庁 大蔵省印刷局）

- (2) 用途利用米についても、平成元年度においてはその生産規模を五十万トン程度というふうにして、いろいろな面で消費拡大に努めているところがございます。

（説明員（高木勇樹君）国会会議録/参議院/常任委員会 第 114 回国会 1989）

- (3) 立阻止権（59 条）を弱める意味で、衆議院での再議決成立の要件を 3 分の 2 から過半数にして、衆議院の再議決がしやすくなるような改正が念頭におかれているのは想像がつく。

（白崎勇人（2003）『秘書が書く国会議員改革—国会議員を科学する常識・うんちく・論争学』 長崎出版）

種類 2 程度を変える

- (4) そこへサバを入れて少し強火のまま煮てから火を中火くらいにして煮て行きます。サバには切れ目を入れてください。

（Yahoo!知恵袋/暮らしと生活ガイド/料理、グルメ、レシピ 2005）

- (5) 岸や内田には抵抗するようだったが、改造を小直し程度にして、岸も国務大臣に残すとすれば、もう手がない。

（吉松安弘（1989）『東条英機暗殺の夏』新潮社）

- (6) 北朝鮮は意図的に資料を隠していて、日本側が弱腰だから出さない。情報を小出しにして、さらに日本から譲歩を引き出そうとしている。

（長谷川慶太郎（2004）『次の世界が見えた』徳間書店）

種類 3 形を変える

ものの形を変えたり、自分の体のある部分の形を変えたりする。

- (7) 以上をそれぞれ粉末にして、三年酒三升に浸し…

（永山久夫(1998)『たべもの日本史イラスト版』河出書房新社）

- (8) 伊勢丹新宿店 LULUGU INNES S 大輪の深紅のバラを華麗な花束にして入れたようなソワレバッグ。

（実著者不明『B I S E S』2004 年 6 月夏号 第 6 巻第 3 号、通巻 30 号）

種類 4 色を変えたり、色が変わったりする

- (9) 社長は目を伏せ、顔を真っ赤にして、恥ずかしそうに、しかし嬉しそうに笑った。

（大原健士郎(1993)『人はみな心病んで生きる—精神科医の生き方カルテ』講談社）

- (10) そのときには、ツェルト（簡易テント）の中で、唇を紫色にして、わななくアキを、すっ裸にして、乾いたタオルでこすってやり、抱き合って、…

（太田蘭三（1994）『被害者の刻印』講談社）

種類 5 物事の様子を変える

- (11) だが、筆者の独断では、原型はゴッホでも全面を塗り絵にして一本のゴッホ原線す

ら感ぜられず恐らく適正な補修は不可能な作品と思う故…

(大川栄二(2004)『新・美術館の窓から』財界研究所)

種類 6 ものをある状態にさせたり、所持の状態や相手の状態、存在の状態を変えたりする
(ものをある状態にさせる)

(12) [ファイル検索] タブを開く 2 [UPフォルダ内] ボタンをオン (押された状態) に
して、UPフォルダ内のファイルが検索されるようにする。

(実著者不明『Winny トラブル解決最終解答』アスキー 2004)

(13) 皆さんはどのようにして寝てますか？扇風機を一晩中つけて寝るとクーラーをタ
イマーにして明け方またつけて寝るとどっちが経済的なのでしょう？

(Yahoo!知恵袋/暮らしと生活ガイド/家事、住宅 Yahoo! 2005)

(14) 2の混合ガスを1～10-1Pa程度まで導入したのち、被処理品を陰極に、容器を
陽極にして約600Vの直流電圧をかけ、グロー放電を行わせる。

(渡辺敏(2004)『熱処理技術入門—金属熱処理技能士・受検テキスト』日本熱処理技
術協会 日本金属熱処理工業会編著 三澤三郎編 大河出版)

(15) 根元からしっかりと上下まつ毛につけます。下まつ毛はブラシを縦にして長さをブ
ラスしていきます。

(実著者不明『JJ』2001年9月号(第27巻第9号) 光文社 2001)

(所持の状態)

(16) タケルはナイロンバッグを肩から斜め掛けにして、足を早めた。引き返すより、さ
っさと通り抜ける方を選んだ。 (松田美智子(2002)『秘密の地下室』光文社)

(相手の状態を変える)

(17) そして、ぼくは腰かけにすわり、膝の上にコドモを横抱きにして、まんべんなく、
ぼくの皮膚にムスメの皮膚がくっつくように揺すりうごかす。

(西成彦(1992)『パパはごきげんななめ』集英社)

4.1.2 ある基準によって、分類、整理する

(18) 猶予人員を5歳刻みの年齢層に分けて見たものがIV-8表であり、さらにこれらを
構成比にして見たものがIV-16図であって、1年齢層別に見た起訴猶予率は兩年
ともほとんど変わらない。

(『犯罪白書』平成3年版 法務省法務総合研究所大蔵省印刷局 1991)

4.1.3 抽象的なことに変える

(19) 市民を互いに遠ざけておき、その相互のコミュニケーションを困難なものにし、彼
らが危険なしには集まれなくすることである

(ツヴェタン・トドロフ(著) 小野潮(訳) (2003)『バンジャマン・コンスタン—民
主主義への情熱』法政大学出版局)

4.1.4 親族名詞、職業、活動を表す名詞につけて、社会的な意味を付与する

種類1 親族名詞

(20) 目つきがこう、色っぽくて寒気がするほどだ。あんな女を女房にして、高級車を乗り回して、政治家どもを足元に這いつくばらせるのが俺の夢さ。

(鶴田 榊 (2004) 『ダンス・ウィズ・キャット 下』新風舎)

種類2 職業

(21) 本邦初の腑分けをおこなったおなじく古方派山脇東洋の流れの山脇某、不遇時代に按摩を生業にして身を起こした賀川流産科の祖賀川玄悦の流れの賀川某など、

(佐藤雅美 (2003) 『啓順地獄旅』講談社)

種類3 活動

(22) できれば柿渋を塗るメンテナンスを家族の年中行事にして楽しむのも。雑草に悩まされずに雨水を土に返すこともできる。

(三澤文子(著)/ 実著者不明 『ミセス』 2001年8月号 (通巻第558号) 文化出版局)

以上から、「XをYにする」という文型は変える・変わる意味を表す場合、形式動詞「して」の脱落は制限されている傾向が見えた。

4.2 慣用句

慣用句1 「気にする」

(23) 声が炸裂するので、慣れていると言えれば慣れているが、外に出ると人目がある。人目を気にして、控えめに叱ってくれるのならまだいいのだが、母は違っていた。

(小山田歩美 (2005) 『ひまわり』日本文学館)

慣用句2 「あとにする」

(24) 雪印食品の偽装工作を知ったのは、乞われてやってきた西播磨をあとにして西宮に戻り間もないころだった。

(今西憲之 (2003) 『内部告発—権力者に弓を引いた三人の男たち』鹿砦社)

慣用句3 「～を異にする」

(25) こうしてモザイクの美は過去の文化財になったように見える。だが、素材と手法を異にして、モザイク画の精神は、コンスタンティノポリスを介し…

(樺山紘一 (1992) 『世界史への扉』朝日新聞社)

5. 会話、見出し、レシピに見られた形式動詞「して」の脱落

前述したように、「XをYにする」という文型は変える・変わる意味を表す場合及び慣用句の場合、「して」が脱落しにくい傾向があるが、すべての変える・変わる意味を表す「して」とすべての「XをYにする」という形の慣用句の「して」が脱落しにくいとは限らない。会話や見出しやレシピなどのような省略が要求される場合、「して」の脱落も見られた。

5.1 「XをYにする」という文型は変える・変わる意味を表す場合見られた「して」の脱落

5.1.1 会話に見られた「して」の脱落

(26a) 約四十人が、収穫したレタスをみそ汁やサラダにして、きれいに管理された開放感のある庭園で昼食を楽しんだ。翁長雄志市長も参加した。

(『琉球新報社朝刊』2004/4/13 琉球新報社)

(26b) (会話) コーンも入れれば彩がキレイだったな～ (苦笑) 最初は「発芽玄米をサラダに ? !」って感じでしたが、試してみたらこれ、かなり美味しかったです。

(Yahoo!ブログ/Yahoo!サービス/Yahoo!ブログ Yahoo! 2008)

5.1.2 見出しで見られた「して」の脱落

(27a) 「今、日本に入っている鰻の大半が、中国産です。中国で養殖した鰻を蒲焼きにして日本に輸出するんですが、鰻を裂く技術が中国にはない。

(深田祐介(1993)『新・新東洋事情』文芸春秋)

(27b) (見出し) 浜中の「日帰りさんま」を蒲焼きに 札幌・パイオニアジャパン

<http://www.suisan.jp/kakou/003854.html> (2012年9月9日に閲覧)

5.1.3 レシピに見られた「して」の脱落

(28a) ハムをみじん切りにしてにんにく入れたオリーブオイルで炒め。

(Yahoo!ブログ/生活と文化/グルメ、ドリンク 2008)

(28b) (レシピ) にんにく、ショウガ (市販のチューブ入りでOK) 一片ねぎ2～3本をみじん切りに。

(Yahoo!知恵袋/暮らしと生活ガイド/料理、グルメ、レシピ Yahoo! 2005)

5.2 慣用句に見られた「して」の脱落

慣用句「心をつににする」

(29a) あるホノルル行きの一機の飛行機のアクシデントにかかわり、皆が心をつにして無事なフライトができるように努力する物語でした。

(Yahoo!ブログ/エンターテインメント/映画 Yahoo!ブログ 2008)

(29b) (文中) 十本の指に満たなくても皆が心をつに一生懸命修行に専念すれば、それはそのまま道場が盛んであるとっていいのだと…

(酒井大岳 (1930)『人生を拓く一正法眼蔵随聞記入門』講談社 1994)

(29c) (見出し) 「心をつに！山元町ふれあい産業祭」を開催します

http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/kankou/fureai-sangyou_fes.html (2012年9月11日に閲覧)

6. b 「XをYにして」と「XをYに」両方の形がそろっている用例

今回の調査で、「XをYにして」と「XをYに」両方の形がそろっている用例が96例ある。

6.1 「XをYに」の統語上の使用数量の分布

その96例を村木（1991）の分類にしたがい、以下の表にまとめる。

分類	時間	空間	限界	基準	理由	目的	資格	所持	排除	手段	相手	内容
数量	8	14	2	30	1	9	2	15	3	4	4	4

統語論上の役割から見ると、96例の例文は次のようにまとめる。

統語論上の役割	状況成分	付帯状況	補語成分
数量	64	20	12

以上の表から、状況成分に用いる「XをYに」が一番多く、全体の66.7%を占めていることが明らかになった。その中で、特に、基準を表す用法が一番目立っている。つまり、「XをYに」の各用法の中で、一番よく使われるのが基準を表す用法で（30例）、全体の三分の一を占めている。次は空間を表す用法で（14例）、全体の14.5%を占めている。

6.2 「XをYにして」と「XをYに」のそれぞれの使用数量と使用率

調査方法1で、「XをYにして」と「XをYに」両方の形がそろっている場合、「XをYにして」と「XをYに」のそれぞれの使用数量と使用率を調べる、次のようにまとめている。

① 「XをYに」の形があるが、「XをYにして」の形がない例

～を活動拠点に、～を限度に、～を理想に、～を楽しみに、～をねらいに、～を心待ちに、～を小脇に、

以上挙げた表現は「XをYにして」の「して」が脱落してから、「XをYに」の形だけ使われるようになり、「XをYにして」の形がまったく使われなくなったと思われる。

② 「XをYに」の使用率が50%を超えた例

～をきっかけに（94%）、～を条件に（92.0%）～を契機に（91%）、～を中心に（87.0%）、～を理由に（87%）、～を目的に（82.0%）、～を基に（76.0%）～を根拠に（74.0%）、～を対象に（73%）、～を境に（73.0%）、～を相手に（69%）、～を目標に（65.0%）
～を舞台に（55.0%）

以上から、全体から見れば、「XをYに」の使用率が高く、「XをYにして」の使用率が低いことがパーセンテージからはっきりわかった。

7. まとめと今後の課題

本論は「XをYにして」の形式動詞「して」の脱落について考察した。結論としては、

(1) 「XをYにする」という文型は変える・変わる意味を表す場合及び慣用句の場合、「し

て」が脱落しにくい傾向があり、「X を Y にして」の「して」が脱落できなくて、「X を Y に」変更できない。しかし、会話や見出しなどのような省略が必要な場合、一部分の「X を Y にして」の「して」が脱落できることが分かった。

(2) 「X を Y にする」という文型は変える・変わるという意味を表さない時、「X を Y にして」の「して」が脱落でき、「X を Y に」に変更できると考える。

(3) 「X を Y に」の一番よく使われるのが基準を表す用法で、次は空間を表す用法である。

(4) 「X を Y にして」と「X を Y に」両方の形がそろっている用例は、「X を Y に」の使用率が高いことが明らかになった。

「～をきっかけにした N」「～をよそにした N」のような連体修飾表現は今回の調査では触れていない。また、「X を Y にする」と「X を Y とする」との区別は更に検討する余地がある。田中(2004)は、「7時にセットするバスのところを9時にセットする(ことにする)」のような表現は<X ヲ Y ニ>という附帯状況を表すフレーズの一部と考えることができると述べている。それらについての考察は今後の課題としたい。

参考文献：

- 奥田靖雄(1983)「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」「を格の形をとる名詞と動詞とのくみあわせ」「に格の名詞と動詞とのくみあわせ」言語学研究会(編)(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』pp281-323 むぎ書房
- 金子比呂子(1990)「「して」からみた「N1 を N2 にして」の位置付け方」『日本語学校論集』pp17-39 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 田中寛(2004)『日本語複文表現の研究：接続と叙述の構造』東京 白帝社
- 田中寛(2010)『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房
- 寺村秀夫(1983)「付帯状況」表現の成立の条件—「X ヲ Y ニ……スル」という文型をめぐって—『日本語学』2巻10号 明治書院 のちに寺村秀夫(1993)『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編集一』くろしお出版 pp113-126
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法』くろしお出版
- 村木新次郎(1983)「「地図をたよりに、人をたずねる」という言い方」『副用語の研究』渡辺実 編 明治書院 pp267-290
- 村木新次郎(1985)「慣用句・機能動詞結合・自由な語結合」『日本語学』4巻1月号 明治書院 pp15-27 のちに村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』に改稿収録
- 村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 森田良行(1985)「動詞慣用句」『日本語学』4巻1月号 明治書院 pp37-44